

国土防災リモートセンシング研究会

会長 町田 聡

幹事 黒台 昌弘

1. 研究会の概要

国土防災リモートセンシング研究会は、それまで永年にわたり活動が続けてきた土木リモートセンシング研究会と地すべりリモートセンシング研究会の活動を引き継ぎ、2002年5月の総会で活動が承認された研究会です。

本研究会では、国土マネジメント・国土防災の観点から、リモートセンシングの実務における利活用方法について、高分解能衛星や合成開口レーダなどの最新技術動向を視野に入れ、研究を進めています。前身の両研究会では、内外の文献調査、各種勉強会の開催、現場見学会の実施、他学会との共同研究、外部機関から学会が受託した研究の実務遂行等、幅広い研究活動を行い、その活動成果は学会誌および学術講演会の機会に公表し、またワークショップを開催するなど、学会員への研究成果の還元にも努めてきました。本研究会では、より実務者の視点に近づくことを目的とし、エンドユーザとなりうる行政担当者向けの説明資料を作成し、実務者とのディスカッションなどを含め、活動の幅を広げています。

2. 最近の活動実績

国土防災リモートセンシング研究会では、下記の2つのWGを立ち上げ、研究活動を進めています。

■In-SAR WG（リーダー：三尾有年(株式会社NTT データ CCS)）

InSARのアルゴリズムや処理内容に関する調査をベースに、衛星搭載SARから航空機搭載SARまで、広くSARデータの国土管理・国土防災分野における利用可能性とその効果、技術的な限界などを明確にすることをめざして活動を進めています。とくに、InSAR処理を行う上でのノウハウの洗い出しや同一エリアでの異なるSARプロセッサによるクロスチェック等、これからSARデータの利用を始めるユーザにとって指標となる情報をまとめる予定です。

■実務利用検討WG（リーダー：熊谷樹一郎(摂南大学)）

国の機関や地方自治体の実務におけるリモートセンシング技術の利用に関し、実務のプロセスを細分化して利用される空間情報の内容と要求品質を明確にし、日常的な業務における技術利用のマニュアル作りを進めています。また、複数のセンサで取得される衛星データ、異なる時期に取得された複数の衛星データを用いた画像解析の研究事例が増え始めていることから、既存の空間情報との融合利用に関しても考察を進めていく予定です。

研究状況については、毎回学術講演会にポスターで報告しているほか、節目ごとに学会誌へ記事を掲載しています。研究会メンバーは随時募集している他、会員の方々からのご意見もお待ちしております。

3. 連絡先

■入会希望：事務局（担当：伊東明彦(宇宙技術開発株式会社)）E-mail:itou.akihiro@sed.co.jp

■活動内容に関する問合せ：幹事 黒台昌弘（ハザマ）E-mail:kurodai@hazama.co.jp